

「月給 3 0 万円」

— 2 稿 —

2026/9/30

米俵

〈人物表〉

松永 拓海

(25)

フリーター

松永 航平

(19)

大学生・拓海の弟

戸田 修一

(46)

工場の先輩作業員

小宮 美咲

(31)

工場の先輩作業員

黒川 誠二

(52)

工場の責任者

店長

作業員

1. 居酒屋・厨房（夜）

焼き場。煙に包まれている。

松永拓海（25）、汗を拭う。居酒屋の制服姿。

焼き鳥を返す。

拓海、焼き上がった皿をカウンターへ置く。

再び、汗を拭う。

店長 「拓海、上がっていいよ」

拓海 「お疲れさまでした」

拓海、エプロンを外す。

2. 道（夜）

拓海、原付で走っている。

赤信号で停まる。

足元。つま先のゴムが剥がれかけたスニーカー。

思わず、あくびが出る。

脇にスニーカーショップ。ショーウィンドウに新品。

拓海、それを見る。

後ろからクラクション。

信号は青。慌てて発進。

3. 工場・外観（夜）

郊外。窓の少ない灰色の工場。

拓海の前付が敷地に入ってきて、止まる。

4. 工場・作業場（夜）

排気口はテープで塞がれている。

天井に監視カメラ。赤いランプが点滅。

数人の作業員がタバコサイズの箱にラベルを貼る。

その中に小宮美咲（31）と戸田修一（46）の姿。

拓海、部屋に入ってきて来る。

戸田の隣の席について、

拓海 「お疲れ様です」

戸田 「拓海くん、お疲れ様」

向かいの小宮、匂いを嗅ぐ仕草。鼻を動かす。

小宮 「ねえ、今日一段と臭くない？」
拓海 「え？ ここですか？」

小宮 「君、今日はなんかすごい匂いする」

拓海 「あつ、今日、焼き場担当で」

と、自分の服を嗅ぐ。

小宮 「煙と油と……この匂いが混ざって、マジ臭い」

戸田 「最悪のブレンドみたいだね」

小宮 「マスク持ってくれば良かった」

拓海 「ひどくないっすか？」

小宮 「自覚ないのが一番ヤバイよ」

拓海 「勘弁してください」

戸田、笑う。

5. 工場・シャワー室（早朝）

簡素な個室シャワーが並んでいる。

壁に貼り紙。「作業後は必ずシャワーを」

拓海、シャワーを浴びている。

6. 工場・ロッカー室（早朝）

拓海、タオルで髪を拭きながら、自分の匂いを確認。

背後の戸田、笑いながら、

戸田 「大丈夫。臭くないよ」

拓海 「ですよね」

と、首をかしげる。

自分のロッカーを開ける。

中に茶封筒。

拓海、封を開ける。中には現金と給与明細。

拓海 「えっ、こんな風にもらうんですか？」

戸田 「驚くよね」

拓海 「盗られますって」

給与明細には、勤務日数12日・勤務時間36時間

・支給額300,000円と書かれている。

拓海、現金を数える。

拓海 「ほんとに30万……」

戸田 「俺も最初、数えた」

拓海、思わず笑う。

7.

アパート・室内（朝）

古びた六畳一間。航平、机で勉強している。

拓海、上機嫌で帰ってくる。

拓海 「ただいま」

航平 「おかえり……機嫌いいじゃん」

拓海 「まあな」

航平、匂いを嗅ぐ仕草。拓海に近づく。

航平 「……兄貴、なんか変な匂いする」

拓海 「シャワー浴びただけ」

と、自分の腕を嗅いで、首をかしげる。

航平 「今日はなんか……」

拓海 「匂いはそのうち慣れるよ」

航平 「あそこ、大丈夫なの？」

と、拓海を心配そうに見る。

拓海 「まあ、ちゃんと出たから」

と、領収印の押された学費の納付書を机に置く。

航平 「そっか……」

拓海 「金のことは心配すんな。お前は勉強しろ」

と、航平の肩を叩く。

航平、何かを言いかけるが、やめる。

8.

工場・作業場（夜）

拓海、戸田、マスクをつけた小宮、黙々と作業中。

拓海の足元。新品のスニーカー。ショーウィンドウ

に並んでいたものと同じ。

拓海、タバコサイズの箱を眺める。

拓海 「これ、タバコっすよね？」

戸田 「今更？ 多分ね」

小宮 「（小声で）ゾンビタバコ」

拓海 「え？」

小宮 「ほら、吸った人がおかしくなるやつ」

と言ってから、少し咳込む。

戸田 「もう、やめなよ。脅すの」

拓海、手元の箱を見る。

拓海 「マジっすか？」

戸田 「ネットはほら。何でもゾンビにするから」

小宮 「じゃあ吸ってみれば？」

戸田 「嫌だよ」

拓海、笑う。

小宮、再び咳込む。

拓海 「風邪っすか？」

小宮、手を止める。

小宮 「……やっぱ今日、**ここ**匂いきついわ」

拓海、匂いを嗅ぐ仕草。

小宮、激しく咳き込む。

拓海 「小宮さん」

戸田が小宮を支える。

スピーカーから、男の声。

男の声 「大丈夫ですか？」

小宮 「……」

男の声 「今日は、気にせず上がってください」

小宮 「でも——」

と言いかけて、咳込む。

男の声、妙に優しく、

男の声 「大丈夫です。残りは、こちらでやりますから」

小宮、戸田の手をそっと払う。

ふらふらと出ていく。

拓海、その背中を見る。

戸田、何事もなかったかのように作業に戻っている。

拓海、出入口の方を見るが、すぐに作業に戻る。

9. 工場・外（早朝）

拓海、原付にまたがり、「**ゾンビタバコ**」と検索。

動画。若い男がフラフラとゾンビのように歩く。

拓海、画面を止める。

10. アパート・室内（朝）

拓海、部屋に入ってくる。

航平、スマホを見ながら、何かを手で弄んでいる。

拓海、航平の手元を見て、動きが止まる。

見覚えのあるタバコの箱。

拓海 「おい。それ、どうした？」

航平 「ん？」

拓海、箱を奪い取る。

航平 「何だよ」

拓海、箱を見る。工場のものと同じデザイン。

拓海 「どこで手に入れた？」

航平 「友達から」

拓海 「……吸ったのか？」

航平 「もらっただけ……兄貴と同じ匂いだったから。返せよ」

航平、取り返そうとする。

拓海 「ダメだって」

航平 「どうして」

拓海 「工場で作ってるやつなんだよ」

航平、手を止める。

航平 「やっぱり」

拓海 「……吸った奴がおかしくなるって噂がある」

航平 「は？ そんなの作ってんの？」

拓海 「ラベル貼ってるだけだよ」

航平 「辞めろよ」

拓海 「簡単に言うなよ。36時間で30万だぞ」

航平 「俺のせいじゃん……」

拓海 「違う」

沈黙。

航平 「……その箱嗅いでみなよ」

拓海、箱を鼻に近づける。

航平を見る。

もう一度、嗅ぐ。

拓海 「……わかんねーよ」

航平 「それがおかしいんだって」

拓海、箱を見つめる。

11. 工場・作業場（夜）

拓海、作業場に入る。

足を止める。

2つ席が空いている。

近くの作業員、黙々とラベルを貼っている。

拓海 「あの……戸田さんと小宮さんは？」

作業員、首をかしげる。

拓海、ポケットに手を入れ、箱を握りしめる。

男の声「松永さん。責任者室まで来てください」

拓海、スピーカーを見上げる。

12. 工場・黒川の部屋（夜）

黒川誠二（52）、モニターを見ている。

モニターには複数の作業場の映像。

ノック音。

黒川 「どうぞ」

拓海、部屋に入り、

拓海 「これ……」

と、つぶれたタバコの箱を出す。

黒川 「商品つぶしちゃったんですか」

拓海 「いや、これは弟が持ってた」

拓海、黒川を睨む。

拓海 「ゾンビタバコ……ですよね」

黒川 「（笑って）違いますよ」

拓海 「え？」

黒川 「松永さん、そういうの気にするタイプだったんですね」

拓海 「……」

黒川、拓海を一瞥して、

黒川 「作業場は別のものです」

拓海 「どういことですか？」

黒川 「新製品の成分を流しています」

拓海 「……俺たちで試してたってことですか」

黒川、リモコンを操作。

モニターに戸田の姿が映る。鼻と口を覆う透明な吸
入マスクをつけて作業中。

拓海 「戸田……さん？」

黒川 「彼は適合したので、次の段階に進んでいます」

拓海 「小宮さんは？」

黒川 「不適合でしたので……」

拓海 「なんなんですか、それ」

黒川 「松永さん、もう匂いを感じないでしょう？」
と、拓海に一枚の紙を差し出す。

拓海、紙を見る。「次段階 月給45万円」
その時、スマホが震える。

画面に「航平」と表示されている。
拓海、着信画面を見つめる。

しばらくして、着信が切れる。

黒川 「辞退してもかまいません。どうされますか？」

拓海、視線を落とす。
その先に新品のスニーカー。

拓海 「……次は何するんですか」
黒川 「同じです。ラベル貼り」

拓海、モニターの戸田を確認。
拓海 「シャワーで、成分は流れるんですよ？」

黒川 「そのはずです」
沈黙。

拓海 「……いつからですか」
黒川 「今日からでも」

と、微笑む。

おわり